

天地

ネットワークテーブル 527号

天地シニアネットワーク 2022. 1. 17

TENTI TODAY			1
会員の広場			3
外国語	英会話の楽しみ(24) 英会話のトレーニング	伊那 闊歩	3
外国語	中国人から見た日本人の言語表現理(30) 穩便をはかる表現心理	俞 彭 年	7
旅行記	「再び、そうだ京都へ行こう」(3) 京都の上賀茂神社を訪ねる	池端 千一郎	9
回 顧	国立慕情(10) 一橋・籠城事件(2)	津田 孚人	12
事務局			15

TENTI TODAY

吹きすさぶ冷たい風が身に染みて難儀しています。苦難の年となりそうですが、なんとか乗り切って、明るい年にしたいものです。天地シニアネットワーク、今年もスタートしましたのでよろしくお願いします。

年賀状の文面にハットさせられる、そして考えさせられる、聖句・詩、短歌・俳句・コメントがありました。参考までにと、紹介させていただきます。順不同、お名前は省略。

今年 また一つ年が増える。

忘れることもふえた

身体の痛いところや、見えない所のシミもきつとふえる

ミスもふえた

ミスをしないようにと朝に誓う

夕べには反省しきり

同じミスをするなど昔、誰かに言われたっけ

失敗は成功のもと、ともいわれた

凡人は一生反省し続ける

年を取るということはこういうことだったのか

祖母はいつも言っていたっけ

今に分かると

(M・Nさん)

ワクチンの接種予約終えふと見やる我が庭隅にあじさいの花
二人して歩み重ねて五十七年二度目のオリンピックをかく迎うとは
世間との交わり薄き二年にて半径二キロに息づきて来し

(K・Yさん)

コロナ禍とやらでひと様とのお付き合いの機会が減り、その分、来し方を振返ることが増えてきました。己は齢をとり、世の中も変化してゆくのに合わせ、過去もその色合いを変化させているようです。

「ともすれば粗忽にて候返り花」

(M・Mさん)

本年は良い年でありますよう A・テニスンの詩(岩波文庫による)に託して願っています。(K・Rさん)

鳴りとばせ 古きものを
迎え入れよ 新しきものを
鳴りとばせ いまわしき疾病を
迎え入れよ 久遠につづく平和を
鳴りわたれ 楽しき鐘よ
雪の野辺をこえて

・「涙と共に種を蒔く人は 喜びの歌と共に刈り入れる」(聖書・詩編126)

・「主の慈しみは決して絶えない 主の憐みは決して尽きない」(聖書・哀歌3:22)

・「年年歳歳花相似たり 歳歳年年人同じからず」

・「禍福は糾える縄のごとし」との言葉の通り、今年之路は、陽光が充ち降り注ぐのではないかとの期待があり、希望溢れる夢が見られるかもしれない

岸田新内閣が誕生して期待をしていましたが、頼りなさが徐々に感じられるようになりました。緊急を要するときに、国民第一より政治優先の影が見え隠れすると感じるからでしょうか。「無理が通れば道理引っ込む」をつづけていると、取り返しの出来ないダメ社会になってしまいます。

「世界は人材育成の大競争時代に入った。支援が必要な人たちを救って全体を底上げしながら、横並びを脱して新しい産業をけん引するトップ人材を増やす。一人ひとりの能力を最大限に生かす仕組みをどう作り上げるか。さびついた社会エレベーター

を動かす一歩がそこから始まる」

日経新聞1月5日朝刊「成長の未来図」の最後にあった文ですが、その通りです。若者の理由のない無差別殺人事件が続発していますが、人材育成に落とし穴があるからではないでしょうか

会 員 の 広 場

英会話の楽しみ (24)

伊那 闊歩 (84歳)

24. 英会話のトレーニング

1.)

筆者はもうすでに2年間、英語教室に通い英語を学びつづけている。キャッシー先生(米国人女性)の指導でイスラエル人歴史学者 YUVAL NOAH HARARI の「21 Lessons for the 21st Century (21世紀の人類のための21の思考)」を教室の数人と輪読している。400ページを超える大作で、著者の熱意に触発されながら読み続けている。見慣れない単語なども多く、著者独特の思考についていくのが難しいところもあるが平易な文体の英語で書かれており、邦訳もあって読解については問題ない。ぜひ一読をおすすめしたい。

ところで筆者の英会話力は、それなりの進展はあったものの本の内容について感想を(英語で)述べ、言いたいことを筋道たてて(英語で)話すことが十分満足にできているかと問われれば、とても yes とは言い難い。

海外生活が長かった知人の男性に、英会話上達のために何が一番効果的であったか聴いて見た。筆者の質問に対するかれの答えは「耳ですよ、耳！」ということであった。つまりかれは、英語はまず聴きとれなければならないと言うのだ。至極当然のことではあるが、これまで何回も強調してきたように聞けるようになるためには話せなければだめなのだ。これでは鶏と卵のジレンマに陥る。

NHK 英会話番組の講師、大西泰斗氏の著書『それわ英語じゃないだらふ』(幻冬舎)によれば、日本人が英語を話せない原因は<英語ではないものを学んできた>ことにあるという。私たちが受けた英語教育は、長らく英文読解が中心に据えられてきた。そのため英会話をどう学ぶか、どう教えるか — その方法論はまともに考察されることがない。「英語を聴きながしているだけで話せるようになる」といった一笑に付されるべき考え方さえまことしやかに語られる、と慨嘆されている。

最近では映像によるいろいろな英語教材が市販されていて、テレビでも英米のホームドラマや「シャーロックホームズ」「ポワロ」などの英語版をまとめて見ることができる。気にいったものを選んで繰り返し見て、聴いて、英語の言い回しをマネしながら覚える

といった方法が英会話のレベルアップに効果的であると言われている。

筆者もこれを実践しているが、ひとつ難点がある。映像に字幕が出るが放映されるもののほとんどが日本語字幕で、当然の事ながらなかなか英語字幕のものが見つからないのだ。たとえば、次のセリフ：

I'm thrilled to start living by myself. (ひとり暮らしを始めるのが楽しみなの)

を調べてみるまでもないが、英語と日本語の語順はまったく逆であることに気づく。

もし thrilled の意味が分からなければ、このセリフの字幕が消える寸前まで待っていなければならない。さらに by myself の意味が分からなければ、日本語字幕はすでに画面から消えている。

つまり、日本語と英語の対応関係がわからなくなるのだ。私たちはすなおに英語を学ぶのではなく英語の語順を逆にして対応する日本語に並べ替える技術を長期間にわたり学校で習ってきたのである。残念ながら、英語を文頭から書かれた順に理解して行く訓練をしてこなかったわけだ。

では、短いセリフならば聴きとれるかという、それが容易ではないことがしばしばある。単音節の単語を早口で発せられると聴き取りにくいらしい。筆者のようにかなり難聴がすすんでいる者にとっては、さらに難度があがる。日本語は主語をはぶくことが多いが、英語ではわかりきった主語でもはぶくことがない、と言われる。

カジュアルな会話では主語を省くこともしばしばある：Looks like rain, doesn't it? (雨ふりそうだね?) Cold this morning, isn't it? (今朝は寒いね?)

次の A と B の会話(「初心者へ贈る英会話勉強方法」より)：

A: When I'm about to drink hot coffee, a phone rings.

(熱いコーヒーを飲もうとしていると電話がなるんだよね)

B: Been there.

ともうひとつ Akiko のブログから

A: I don't know how to get a balance between career and love lives.

(どうしたら仕事と恋愛を両立させたらいいかわからない)

B: Been there.

の Been there の意味は何か。この言葉をはじめて聞いたなら何を言っているのかサッパリわからずとまどうのではなかろうか。これらはどちらも軽い相槌のようなもので「あるある、そういうことあるよね」「そうそう、そういう経験あったよ」という意味でさかんに使われている。

もともとは I have been there. (そこにいったことがある。いたことがある) となっていたものが そのうち I have がとれて Been there (そういう経験したことがある) → (あるある。そうそう) と casual に崩れていったものと思われる。なお、Been there, done that! (もううんざり! もう飽きあき!) という言い回しもあって会話でよく使われて

いるらしい。

リスニングについては、ニューヨークタイムズ東京支社で記者として活躍する上乃久子氏の著書『純ジャパニーズの迷わない英語勉強法』(小学館新書)にくわしい。リスニング力を伸ばすために近道なのは、とにかく一定の期間、集中的かつ継続的に何度も英語を聞くこと、ただ単に聞き流すだけでなく、音源の中で語られるひとつの文章を細かく区切り、小分けにして、繰り返し聴き込んでいくことだそうである。

2.)

前回でも指摘したことなのだが、外国語を習得するためには、基本的なフレーズや頻繁につかわれる言い回しのパターンを(呪文を唱えるようにして)なるべく多く覚えることが有効である。前記、大西泰斗氏の著書にも「英会話の学習には、可能な限り多くの自然な文を覚えること」、会話では「英作文ができないからです」という。

話し相手の言葉に反応して一瞬のうちに適切な作文ができて、即座に言葉を返せることが理想ではあるが、私たちはネイティブではない悲しさ、珍妙な作文をすることよりも覚えた自然な文章をそのままか、それらを組み合わせで喋っていくほうが、より効率的で誤解されることも少ないと言っているのだ。

挨拶などはそのままつかえる。初対面の挨拶は Nice to meet you. その応答は Nice to meet you too. すこし丁寧になると It's a pleasure to meet you. その応答は The pleasure is mine. また同じく It's an honor to meet you. (お目にかかれて光栄です)「ポワロ」では初対面のときほとんど必ず How do you do? と言う。その応答は同じく How do you do? である。

一度会った相手に二度目に会ったときには meet のかわりに see をつかって Nice to see you again. あるいは Great to see you again. という。二度目からは meet はつかわず see と言う。

「元気ですか」は How are you? こう声をかけられたとき Fine, thank you. How are you? と応答する、聞くときは are にアクセントがあり応答するときには you にアクセントを置くと中学校で習った。筆者の経験では、この応答は同僚なら Fine thanks. である。聞き方も、How are you doing?(調子はどうですか) How's it going?(調子どう?) What's happening?(最近どうしてる?) What's new?(変わりない?) What's up(最近どう?)など多くのバリエーションがあって、その応答も I'm fine. I'm okay. I'm great. (調子いいよ) I'm cool. (大丈夫だよ) Not bad. (悪くないよ) I'm in bad shape. (体調悪いです)などいろいろある。

友人と久しぶりに会って久闊を叙するときの挨拶は I haven't seen you for a long time.(お久しぶりです) It's been a long time. (久しぶりですね) It's been a while. It's

been ages. (かなり久しぶりですね) などが一般的で、Long time no see. (ひさしぶり) はあまり親しくない相手には言わない方が良いとのことである。

電話の応対もきまり文句があり、それを知っていれば言葉につまづいて気まずい思いをしないですむが、知らなければ慌ててパニックに陥ることもあるだろう。

「どちらさまですか？」と訊ねるときには決して Who are you? とは言わず Who is this? というということは最低の常識である、と習う。しかしながら、このままでは丁寧さに欠ける。電話がかかってきたときの応対として次のやりとりを見ていただきたい。

Bank of America の B (Thomas Bell) から Ina Trading Company の A (Naomi Kimura) に電話がかかってきた:

A: Ina Trading Company, Naomi Kimura speaking. (いな商事、木村直美です)

B: May I have Mr. Ina, please? (伊那さんとお話しできますか)

A: Excuse me, but may I know who's calling, please? (おそれいりますが、どちらさまでしょうか)

B: This is Thomas Bell, from Bank of America. (アメリカ銀行のトーマスベルです)

A: Thank you, please hold. I'll put you through. (ありがとうございました 少々お待ちください おつなぎします)

ここで A は C (Ina)氏に電話をとりつぐ:

A: Hi, Mr. Ina. You have a call from Mr. Bell of Bank of America on line 3. (伊那さん、回線3番にアメリカ銀行のベルさんからお電話です)

C: Hi, Ina speaking. (もしもし、伊那です)

電話を切らずにおくことを hold, hold on, hang on といい、電話を切ることを Hang up という。Hang on a minute. (電話をきらずにお待ちください) put you through (おつなぎします)も覚えておくべき言い回しである。

3).

おわりに、以上のつづきとして、覚えておけば役に立つであろう言い回しを集めて英語重要フレーズのリストを作ってみようと思っていた。ここから紙面を2段組にして、紙面の左側に日本語を書き、対応する英文を右側に書いて英語のフレーズ集とするのである。ところが Windows のレイアウト(段組)の都合でうまくいかず、結局フレーズのリストは別冊付録にしようと考えている。

英語の専門家でもない一介の理科系人間が専門書ではないとしても英会話にかんするエッセーを書くなどとてもなく厚かましいことと覚えつつ2年間も続けてこられたのは、素人の視点で書かれた英会話の本が見当たらなかったことと、専門家の意見が必ずしも一致したものではないということを知ったからである。

それなら素人として悪戦苦闘しながら体験してみよう。独自の訓練を模索してゆく

過程を報告するのも面白いのではないかと思ったのだ。楽しんで英会話をものにしようとしてもダメである。集中力と理にかなった訓練をとにかく継続することによって英会話力は少しずつついてくる。

「手応えを感じる瞬間はある日突然訪れます」(上乃久子、上記著書)この言葉を頼りに今後も英会話のトレーニングを継続していきたいと思う。

毎回、適切なコメントをいただいたり先生には心から感謝したい。先生の激励叱咤がなければとても為しえなかったことである。「天地シニアネットワーク」の津田たかと氏には筆者の遅れがちな原稿をいつも忍耐強く待っていてくださり貴重な助言と協力をいただいた。どうもありがとうございました。

中国人から見た日本人の言語表現心理(30)

愈彭年(84歳)

穩便を図る表現心理

日本の新聞を読んでいて、いつも感心させられるのは表現に穩便を施す工夫である。例えば2005年3月4日の『朝日新聞』の第一面に載った「証取法違反の疑い 東京地検本社・自宅を操作」という見出しの付いた記事を読んで文末の処理に感心した。その記事の文末を順に示すと次のようになる。「……逮捕した」「……一斉搜索した」「……発展した」「……立件する方針」「……供述をしているという」「……進めてきた」「……逮捕した」「……継続することにしたとみられる」「……偽装」「……伝わっていたことが判明」「……提出されたという」「……問うことにしたとみられる」「……指示したとされる」「……売却したとされる」「……判断した模様だ」「……就任した」「……辞任」「……辞任した」。全文のセンテンスは 21、そのうち文末ではっきりと断言したのが 12、断言してないのが9であって、「……という」が2、「……とみられる」が2、「……とされる」が4、「……模様だ」が1である。

断言しないのは穩便を図るためであろう。その穩便を図る工夫はいろいろであり、それぞれ独自のニュアンスを持つ。「という」は多くの人がそう述べそう認めているという伝聞を表す。「とみられる」はそう考えられるという意味であり、「とされる」は一般的にそう考えられているという意味で、「模様だ」はありさま・ようすを表す。

このほかによく使われる表現で「……そうだ(様態)」「……としている」「……といわれる」「……と見る」「……ようだ」「…そうだ(伝聞)」「……らしい」「……みたいだ」などがある。

中国語にもこれと似た言語表現心理はあるが、日本語ほど細かくなく、それに中国語のほうは実質的な意味を持ち、日本語のほうは微妙なニュアンスを示すことにある。そのため、日本語のこの微妙なニュアンスを中国語に訳すのはほとんど不可能であ

り、たとえ忠実に訳したとしても中国語としてはたいへんぎこちないものとなる。したがって中国語訳の場合は普通ほとんど無視されて訳されない。ただ実質的な意味を持つ部分だけが訳される。だから日本文の中国語訳を読むと、原文の持った情的なものや感覚的なものが感じられない。

逆に中国語を日本語に訳す場合も難しく大変だ。原文どおり訳せば、いわゆる硬い翻訳文となり、日本語としてぎこちない。つまり微妙なニュアンスを表せてないからだ。すると、原文の奥にある情的や感覚的なものを文脈からとらえださなければならない。翻訳を通すと中国人と日本人との言語表現心理の違いがはっきりと感じられる。したがって良き翻訳者となることは中国人と日本人との言語表現心理に精通することとなる。

日本人の話を聴いていて、よく耳にする文末の言葉「……と思います」がある。私はよく「……」と思いますと聴くと、同じ意味のことを中国語で話せばどうなるかと考える。すると「……と思います」に当たる言葉はたいてい「**我觉得……**」となる。例えば、「一言で『老人ホーム』といってもたくさんの種類があって、これから高齢化社会になるにつれて、このような知識も、専門家でない私達も必要になってくるものだと思う」を中国語で話すと、「**我觉得说“老人院”也有各种各样, 今后随着老领化社会到来, 这种知识对我们不是专家的人也会需要的**」となる。

例をもう一つ、<トーク番組は難しいと思う。視聴者を、知らずしらずのうちに話の中に引き込んでいく巧みな司会が重要なポイントになると思う。これからのトーク番組では、ひと工夫も二工夫もしてほしと思う>。三つのセンテンスにみな「と思う」が付いている。

中国語に訳すと「**我觉得漫谈节目很难, 要使电视观众不知不觉地被漫谈吸引住, 我觉得主持的巧妙成为重要的一点。我觉得今后的漫谈节目要多多动脑筋**」となる。

「**觉得**」にははっきりと断点しないニュアンスが含まれている。「と思います」は自己の判断や意見や見方などを述べるときによく文末に付けられる。付けるのとつけないのとはどう違うのだろうか。「思います」はここでは「感じます」の意味であり、「と思います」は「そう感じます」という意味になるのではないか。したがって「と思います」を付けるとこれは感覚的・直観的な判断、意見、見方であることを示し、断言しないために語気が弱まり、穏便を図る心理が働いている。「と思います」を付けなければ断言の形となり、語気はおのずと強くなる。「……と思います」は控えめに、慎重に、穏便に話す場合によく使われる表現となる。

よく観察すると、人によって「と思います」を使う頻度が違う。また同じ人でも場によって使う頻度が違う。これは性格やそのときの雰囲気や話の内容などが異なるからだろう。中国人も「**我觉得……**」を使う状況は同じであるが、総じて言うと、日本人の「……

と思います」の使用頻度は中国人の「我觉得・・・」の使用頻度より高いようだ。これはストレートがちに物を言う中国人と遠慮がちに物を言う日本人との言語表現心理における違いからくるのだろう。

「とされる」と「みなされる」などは文末につけるだけではない。連体修飾語としてもよく使われている。

「再び、そうだ、京都に行こう！」—その4— 池端千一郎 (74歳)

京都の上賀茂神社を訪れる(その1)

今回の京都旅行の4日目は京都市内北区の上賀茂神社を訪れた。ホテルのある四条烏丸から四条河原町まで歩き、そこから市営バス4系統で約30分、上賀茂神社前というバス停で下車した。正面の鳥居をくぐり、白馬厩舎の横を歩いて5分ほどで境内に到着した。

この神社の辺りから京都盆地＝山城国は始まる、つまり京都盆地の北限であり、京都市もここまで来ると明らかに郊外という感じがする。バスを降りてまず感じたのは、「空気が澄んでる！」「山が近いぞ！」「気持ちがいい！」「来て良かった！」等の印象。

ちなみに上賀茂神社は京都市内で最も古い神社である。創建は677年というから、桓武天皇が平安遷都を敢行した794年よりさらに百年以上さかのぼる。この上賀茂神社から4km程南には同じ系列の下鴨神社がある。

北山山系から流れ出た「賀茂川」と比叡山系から流れ出た「高野川」は、京都市内の出町柳付近で合流する。地元では一般にその合流点より下流を鴨川と呼ぶのだが、合流点からほど近く、賀茂川と高野川に挟まれた三角地帯にあるのが下鴨神社だ。

前述したように両神社はいずれも同じ賀茂社に属し、毎年5月15日には京都三大祭りのひとつ「葵祭り」の舞台となる。何故だか上や下の後に続く「かも」という字が異なる。京都の人は、出町柳より下流を鴨川と呼ぶから、鴨川の起点に近い方を下鴨神社と呼ぶようになったのかもしれない。

またこの二つの神社は、7世紀頃この辺りを支配していた賀茂一族の氏神として創建された神社である。両神社の境内には国宝や重要文化財に指定された社殿などが多数あり、ユネスコによる世界遺産にも登録されている。有力な神社を表わす一宮22社の一つだ。

さて僕が今回の旅で上賀茂神社を選んだ理由は、「京都で最古の歴史を有する神社だから」とか、「国宝や重文指定の社殿が沢山あるから」ということではない。

その理由は、上賀茂神社の境内には隣接する賀茂川から明神川という小川が庭を

構成する主要な要素として引き込まれており、境内から出た後も、近接する社家の邸宅群の門前を水路となって流れている。この水路と伝統京風邸宅の織りなす光景は景観的な評価が大変に高い。

京都の神社やお寺にはしばしば池や水路やせせらぎが作り込まれている。上賀茂神社では境内をゆっくりと蛇行しながら流れる明神川(通称ならの小川)がそれに相当するが、その川幅は結構広く、ところによっては二間近い幅になっている。

澄んだ水が浅いけれど川幅いっぱいの水量で流れていて、耳を澄ませば清らかなせせらぎの音が聞こえてくる。それが何とも心地良い。水路のルートやレイアウトには庭園設計者の好みや意図が感じられるが、さほど不自然ではない。

もし真夏に来れば、小さな子供達が浅い清流のなかに入り込んで、大喜びではしゃぐだろうなという想像が容易にできる。目を閉じれば子供達の歓声が聞こえてくるようだ。

この神社の境内は京都でも有数のパワースポットらしいが、空気の澄んだ晴れた日に境内の木陰で清らかな水の流れを觀たり音を聴いていると、生き返るような気分になるのは確かだ。それで「なるほどこれがパワースポットの正体か」と勝手に解釈した。

さて次回は主に境内から外に出て、当神社の社家邸宅群前の水路風景についてその印象を書きたいと思う。

上賀茂神社近くの賀茂川



神社正面入り口の鳥居



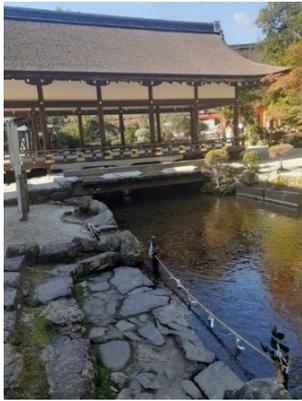
神社の白馬

境内を流れる ならの小川(明神川)



社殿の下にも巡らされる水路

子供達が遊びそうな澄んだ小川



国宝の社殿



一橋・籠城事件 (2)

籠城は、10月5日に始まり、4日目の10月8日で終わる。前号(526号)は、籠城第一日目(昭和6年10月5日)、さらに続く。

10月6日(火)、午前9時より学生大会が開かれ、「突如我予科及ビ専門部廃止ノ断案飛ンデ商学ノ殿堂危急ヲ告グ」と籠城の声明書を作成発表した。

交渉委員はこの日も手分けして、安達兼蔵内務大臣、南次郎陸軍大臣、永井柳太郎外務政務次官その他を官邸に訪問陳情した。

午前10時、籠城学生は全員校内の広場へ集合し、街頭デモの訓練を始めた。全員が4列縦隊になり、一橋会歌「長煙遠く」を唄いながら校内でデモを行い、氣勢を挙げた。錦町警察署から可成りの人数の警官が馳せ参じて、塙の外に分散して警戒に当たった。

デモは、3日、4日、5日と行われているが、陳情先へのデモで統制部の指導のもと模範的なデモであった。新聞は「これが街頭デモのはしり」と報道している。

午後3時半、校内デモを行って氣勢を挙げたが、統制部からの「街頭デモ決行」の秘密指令があり耳打ちで全学生に伝えられた。警官隊に崩されないように、先頭と四列縦隊の両端に頑健な者を配置、端の者は、一方の手で前列の端の者の腰のバンドをしっかりと掴み、他方の手で隣の者とガッチリ組む、という事前訓練を繰り返し行った。

そして、「街頭デモ決行」の指令が出たが、いざ校外へ出ようとする警官隊が包囲していて出られない。そこで、柔道部、剣道部、ボート部、ラグビー部、陸上競技部などの猛者連をタンク隊と称する先頭小隊に編成し、校門突破をはかる作戦を練り上げた。さらに警官隊を欺くために、一橋会歌「長煙遠く」や予科会歌「君よ知れりや」などを放歌高吟しながら、校内デモを5回、6回と繰り返した。

校門付近に固まっていた警官隊が安心して分散、校門付近の警備が手薄になったところで、デモ隊は一挙に正門、裏門を突破し校外へ雪崩れ出た。

一人の予科三年生の手記「予科三年一組大量検挙さる」より

「4人が腕を組み合っていた。予科三年一組「簾月会」は、一橋の北裏門を出て、左に曲がった時には先頭になっていた。目標は「靖国参拝」と口伝えに知らされていた。」

「急だった靖国神社の坂を上りつめ、大鳥居から反転して引き返す。神保町交差

点から旧校舎へ向かうときには、黒の上着と白ズボンにサーベルをぶら下げた警官たちで一杯だった。検束と言う号令で一瞬のうちに前から横からいっぺんに取り囲まれてしまった。私は巡査の手を振り払おうと右手をグルグル回していたが、執拗に手を取りに来る巡査に敵愾心は一気に爆発、狙いをつけた拳の一撃が、チョビ髭の喉もとにジャストミートしたので、巡査は一米くらい吹っ飛んだ。

その後が大変だった。ソイツダ、ソイツダという大声が迫ってくる。相変わらず右手を回して行進していたが、膝の内側を蹴られて前のめり、4人一組がずると列外に抱え出された。立て！歩け！と言われていたうちにいつの間にか4人はバラバラにされ錦町署の方へ歩かされた。手錠はかけられなかったが、私服警官がピタリ横につき“大人しく歩け、警官をブツバシタお前は29日の留置を覚悟しろ”と囁かれ、別の私服は、太い腕をまくり上げ”俺は講道館四段だ。警察の道場でタツプリ可愛がってやる“とすごんでいた」

神保町から一ツ橋へ向かって進む間に、デモ隊の外側の者は次々と隊列から抜かれ、警察署へ連行された。検束を免れたデモ隊員は、駆け足でスクラムを組み校内へなだれ込もうとしたが、正門、裏門とも多数の警官隊がいて閉門されていた。この日、デモ隊にはもう一隊あった。春入学したばかりの一年生は、靖国神社は無理と校舎の周囲を一周デモルとされていたが、この一隊が校門が閉鎖されて立ち往生している所へ、本隊が戻ったので大混乱、警官隊と大乱闘となってしまう。

その結果、60人が負傷、入院するものも出た。検束者は、予科44人（うち簾月会26人）、専門部50人、本科20人、合計114人だった。

錦町署では、検束した学生の数が多いため留置所だけで収容できず、柔道場、剣道場にも収容したが、ギューギューづめであった。

本間喜一教授と常盤敏太教授が錦町署長に厳重に直談判し、ようやくのことで全員をもらい下げた。

学生は、校内に帰るまでの途中の店々に「商大生ご苦労さん」とか「今日は商大生に限り無料です」と書いた札が貼っているのを見て感激、遠慮なしにコーヒーを御馳走になり、神田の人々の人情の厚さに救われた思いをした。

この日のことについて、ラジオ・新聞が「村松恒一郎教授も検束され、上田貞次郎、太田哲三、猪谷善一、中山伊知郎教授らは警官に殴打され、上田教授は頭部重傷入院」と報じられたので大変、上田教授には世界中から見舞電報が届き、誤報の返電を打つのに相当な電報料金を払わされたとのことだった。

籠城事件解決のために、教授会も積極的に動いていた。当日も、午後1時と5

時に連合教授会が開かれ、70人近い教授が集まった。議論の末、上田教授の「籠城解散を学生に言っても受け入れない。学生と教授会とが対立するのは好ましくないの、一時如水会に預けて欲しい」との提案がなされ、議論のすえ了承された。

如水会では、藤村理事長、上田、窪田の常務理事が、如水会の決議文を持って、田中文相を訪問、さらに井上蔵相に会見を求めたが謝絶され、如水会に戻った。

上田教授は、その夜深更、若手教授を集めて協力を要請、出席者全員から賛成を得て、錦町の旅館に投宿、責任の重大さに一睡もできなかったと語っている。

そのような中で、内閣の重鎮であった安達内務大臣にあった学生の交渉委員4人が、「よく分かった。心配せんでいいよ。善処するから」との返事を得るといふ収穫があった。

安達内相の言葉は嘘ではなく、夜半に「安達内相の進言によってさしもの頑固者の井上蔵相も折れて、この問題は今回の緊縮政策から省く模様」とのニュースを耳にした東京日日新聞の佐倉記者（先輩）が、翌7日の新聞に「北海道帝国大学と東京商科大学との予科、専門部廃止につき、政府は今回の行政整理では行わぬとのことに決定した模様」という報道をした。

10月7日（水）しかし、事件の解決は一向に進まなかった。早朝、上田貞次郎教授は、「自分は問題が有利に展開するとの見通しがついたと確信している。自主的に解散したらどうだろう。万一、籠城解散して、問題が解決しない場合は、自分は一切の公職を辞し、隠遁する覚悟だ」と伝えるが、学生は聞き入れない。籠城参加学生は増え、その数は400人以上増の2千人を越えた。殆どの学生が、参加したのである。

教授会は前日の学生デモに対する警察官の暴行について警視總監に抗議、夕刻、二日間の臨時休校を決定した。如水会も、早朝に理事長、常務理事が井上蔵相の私邸を訪問したが、会えず、日本商工会議所で会頭の郷男爵に陳情書を提出、協力の意を得た。

10月8日（木・籠城4日目）前夜から情勢分析を続けてきた学生統制部は、残念ながら「全学生総退学」という最後の抗議行動をとらざるを得ないとの結論を出した。

午前10時、第九回学生大会開催、相京統制委員長は、「いよいよ最後の時が来た。政治家の老獪、教授団の優柔不断は絶対に信頼することが出来ない。」と言明「これ以上の遷延は許されぬものと考え、ここに全学生の総退学を提案する」と表明した。一瞬、満場二千余の学生は声を飲み、肅然として、「断乎、総退学」と嵐のような拍手、満場一致で可決した。

大会が終わり、学生はクラス毎に部屋に集まり、退学届の奉書巻紙に毛筆で署名、指を切って血判を捺し、代表が、統制部に届けた。

しかし、「街頭デモを今日もやるべし」と主張する一部の学生がいたので、学生大会前に相京委員長は、上田教授に、「統制部は、校外デモはやらないことに決定したが、今日一日が危ない」と伝えてあった。

上田貞次郎教授は、電話を聞くと直ちに田中文相の私邸に赴くが、「何も知らない」と簡単に逃げられてしまった。しかし、各方面を訪ねた中で、民政党の山道幹事長から「昨日の報道は確実なもので、今日中か、遅くても明朝までには決まりますよ。ただし自分が言ったとは言わずにしてほしい」との言を得た。

上田教授は「形勢好転」を相京委員長にある程度詳しく伝え、午後、学生大会が開催された。上田教授は「詳しいことは言えないが、形勢は好転している。確実な根拠を持っているから自分を信じて貰いたい」と学生に伝えたが、「教授団その他はすべて信ずるに足りぬ」と総退学に踏み切ったばかりの学生にとっては、直ぐに乗れる話ではなかった。

そこで、「学生が直接たしかめるべし」との決定がなされ、夕刻、相京委員長以下4人の学生代表と、教授会側の代表3人、計8人で文部省に向かった。文相との会見は、学生、教授連別々だったが、いずれも「行政財政整理案から予科・専門部は除外する」という言明を得ることができた。

学生代表は、籠城構内の統制部室に戻り、統制委員会を開く。相京委員長は「よって、本日をもって籠城を解散することにしたい」と提案し、強硬な反対論も出たが、委員長の言葉の陰には、「死をもって全責任をおう」という悲壮な決意があるのを全員が読みとり、提案に従うことになった。

(つづく)

事務局

天地シニアネットワーク事務局（津田 孚人）

〒116-0001 荒川区町屋3-2-1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス：tentisenior06@gmail.com

電話・FAX 03-3819-7651